

## 『びゅんびゅんごまショーしようや。』

育っている姿(自立心、協同性、言葉による伝え合い)



びゅんびゅんごま  
ショー、来てくだ  
さい!



ケンケン  
しながら、  
回せます!



育っている姿

1月中旬にびゅんびゅんごまを作ると、「回せるようになりたい!」という思いから何度も繰り返して練習をしていた子ども達。2月上旬、Aちゃんが「びゅんびゅんごまショーしようや。いろいろなクラスの子に見せてあげたらどう?」と言いました。そんなAちゃんの考えをみんなの前で発表すると、「いいがん、やろうや!!」と声があがり、ショーを開催することになりました。そうと決まると、「いつする?」「月曜日だったら、お休みがあって忘れたらいけんけんもう少し早くしようや。」「何時からする?リズムジャンプの後にそのままゆうぎ室でするのはどう?」「いろいろなクラスにチケット作って配ってくるけん。」「誰が出る?」「もっといろいろな技を見せれるように特訓するわ〜。こんなのどう?」「明日のショーの時間、もう1回言ってくるわ〜。」など、ショーを開催するために必要なことを考えたり、友達と相談したりして自分達で準備を進めていきました。

びゅんびゅんごまショー当日を迎え、とても張り切っていた子ども達でしたが、いざ、ゆうぎ室でしようとする、「全員ステージの上だと狭いな。」「お客さん、どこに座ってもらう?長い椅子だけだと、座れんかな…」、「小さい組のお友達、この椅子座れるかな…、高いかもしれんな。」と新たな問題が出てきました。“どのようにするかな”と子ども達の言葉を聞いていると、「ステージの上と下に分かれたらいいんじゃない。」「ござを持ってこようや。」「後ろにござ敷いたら見えんで、前に敷こうや。」と見に来てくれるお客さんのことを考えたアイデアがたくさん出てきて、自分達で解決していききました。

そして、いろいろなクラスの友達が見に来てくれ、いよいよびゅんびゅんごまショーを始める時間になりました。ちょっぴりドキドキした表情を見せる子どももいましたが、自分のできる技を見せたり、新しく考えた技をステージから降りて側で見せたりすると、「すご〜い!!」とお客様から拍手をたくさんもらい、とても満足そうな表情の子ども達でした。

“びゅんびゅんごまショーをしよう”という同じ1つの目標に向かって、友達と力を合わせたり、考えを出し合ったりして、やり遂げようとする姿が見られた一場面でした。また、“びゅんびゅんごまを回せるようになりたい”と頑張ったことを認めってもらったこと、来てくれるお客さんの気持ちを思い、アイデアを出し合うことでお客さんが喜んでくれたことなど、子ども達の頑張りや相手を思いやる気持ちが見られていました。